

『授業ブックレット』刊行に寄せて

「あるページを見ていたら、次のページもめくって
みたくなる。つづきを読んてみたくなる。そこで何か
感じるものに出会う。問いや疑問がわいてくる」

このような教科書、すなわち「問いを生み出す歴史教科書」を作れないだろうか。私たちはずっと考え続けてきた。そしてできたのが『ともに学ぶ人間の歴史』だ。

今、5300人の中学生たちがこの教科書で学んでいる。市民も各地で、この教科書を使って学び直しを始めている。

『龍谷大青春俳句大賞』の第3回や第5回を開くと、若者たちの歴史を詠む句にいくつも出会う。

卑弥呼にも私にも吹く青嵐（浦田雅子）

椅子一つ足らぬ机や沖縄忌（照屋太司）

大航海時代の航路石榴喰ふ（渡邊康治）

彼らは人間の歴史を実感として捉えている。きっと暗記中心の歴史学習から、自ら問いを持ち歴史と対面し、歴史を学ぶ楽しさと面白さを味わったことだろう。

一方、「学校でどんな授業をしているの?」「近現

多様な授業の可能性を広げる

『ともに学ぶ人間の歴史』



No.1

授業ブックレット創刊にあたって 安井 俊夫
ムギとブタ 千葉 保
働く人びとの姿から学びを広げる 山田 麗子
一揆と惣 関 誠
東学農民戦争からとらえた日清戦争 黒田 貴子
嘉手納基地を訪ねる 鳥塚 義和

No.2

必ず成功する火おこしの技術 岩本 賢治
「問いの生まれる授業」をめざして 大塩 達
学び舎教科書で学ぶスバルタスの反乱
教科書を“読む”力を鍛える 水村 暁人
学び舎教科書の「ヘンダナ」を探そう
中世ってどんな時代? 和井田祐司
一遍の救済活動を考える
学童疎開 千葉 保



代史をどんなふうに教えているの？」という質問が市民から出された。先生からも、「学び舎歴史教科書で、他の先生はどんな授業をしているの?」「教科書を授業でどんなふうに扱っているのかを知りたい」「生徒たちが食いつく授業をするのに、どんな工夫しているの?」という声も寄せられている。

このような声に応え、授業実践の交流の場として『授業ブックレット』を企画した。

授業には同じパターンはないが、ブックレットで紹介する実践者たちは、学び舎教科書の図版や文章

を重要な切り口にした授業づくりに取り組んでいる。そこから生徒が自らの問いを持つ。そして読みすすめる。もっと知りたいことを自分で調べる。

授業で獲得した歴史認識は、その人の価値観を構築する土台となるはずだ。授業を通して、歴史を体感し、考察し、その知恵を未来に活かそうとする若者・市民が増えていけばうれしい。

『授業ブックレット』が、多様な実践や授業に役立つ研究を載せ、教室と地域、先生と若者・市民との交流の場となるようにと願っている。

(2018年6月)

授業ブックレット

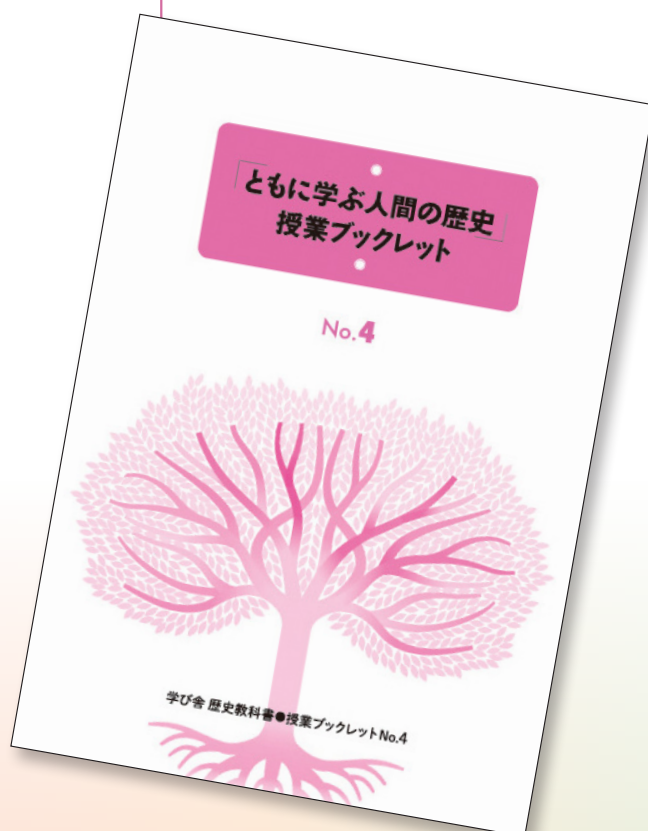


No.3

- 歴史を学ぶとはどういうことだろう? 奥山 忍
学び舎教科書を使って考える
町人の台頭 篠宮 雅代
図版から読み取る元禄時代
糸を紡いでみよう 鳥塚 義和
ガンディーの非暴力運動を考える 藤原 敏
炎の中を逃げまどう 檜崎 茂彌
ゲルニカ・重慶そして日本本土

No.4

- 福岡市志賀島出土の金印 舟山 良一
米屋を襲う人々 若杉 温
「幕末江戸市中騒動図」を読む
あなたならどうする 菅間 正道
ナチのユダヤ人迫害問題を考える
子どもたちの活動と戦後の教育 檜崎 由美
地域教材を取り入れた授業例



生徒からの「問い」と教師からの「問い」

『ともに学ぶ人間の歴史』のコンセプトの1つは「問いが生まれる教科書」。「問い」をめぐり、No.2の「教科書を“読む”力を鍛える」に1つの試みがある。

教科書を読み「ヘンダナ探し」を切り口に、生徒の問いを引き出す。生徒が問いを見つけ出すことが大事。「自ら考えていく力＝教科書を『読む』力を鍛えていくことができれば、それが世界・社会を『読む』力にもつながっていく」と執筆者は語っている。

教師から投げかけられた「問い」もたくさんある。

・東学農民達は殲滅されてしまったが、どう思うか。

・打ちこわしは正義か？

・集団疎開は子どもたちの命をまもったか。

教室でのその後の展開は、ブックレットに載っている。教室での教師の言葉・生徒の言葉、提示される資料・図版など、授業をイメージできるよう、できるだけ具体的に記述した。2018年にNo.1を発行してから、2019年末までで6冊となる。下の欄にこれまでのテーマを載せた。教科書とともにブックレットも読んでいただけることを願っている。

(学び舎ブックレット担当 千葉・檜崎・不破)

『ともに学ぶ人間の歴史』 授業ブックレット



No.5

- 地域を歩く 福田 恵一
用水路から地域の歴史を考える
- 黒船と庶民 千葉 保
黒船を楽しもう!黒船で儲けよう!
- 「おっけぺ節」と「民権数え歌」 鳥塚 義和
- 本土決戦体制下の学童疎開 安井 俊夫
子どもたちはどこへ連れていかれたのか

No.6

- マゼラン船隊の世界一周 高嶋 道
アジア人からの視点を模索する
- 朝鮮通信使の授業を構想するために 三橋 広夫
- 女性運動の高まりといわれなく
- 殺された人びと 山田 麗子
絵や記録、証言から1920年代を考える
- 戦争が遠くなった君たちへ 平井 敦子
戦時下の模擬家族



●購入をご希望の方は学び舎に直接ご注文ください

〈学び舎注文販売〉 1冊から承ります 定価/700円十税

送料/全国一律100円・3冊以上は送料無料 代金支払方法/後払 郵便振替用紙をお送りします。

E-mail:manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp FAX:042-512-5961 〈お問い合わせ〉学び舎 TEL:042-512-5960